平成２６年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	教員養成教育における音楽分析能力の向上に関する日墺比較研究

研究代表者

氏名	所属	職名
中地　雅之	音楽・演劇講座	教授

研究分担者

氏名	所属	職名
Dr.Barbara Dobretsberger	Universität Mozarteum Salzburg	Professor
高澤ひろみ、椎野伸一、中野孝紀	音楽・演劇講座	教授

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

本研究は、音楽教員に求められる＜音楽分析能力＞の向上を図るため、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学の教授を招聘し、セミナーの開催を通じて本学教員および大学院生・学部生がドイツ語圏の先端的の研究成果と研究動向を得ることを目的としたものである。音楽分析は音楽教員養成教育において不可欠な領域であるが、本学では常勤・非常勤教員の削減によって、当該科目が開講されていない現状にある。研究協力者である Barbara Dobretsberger 博士は、ウィーン大学で学位を取得し、最先端の知見を踏まえた音楽分析に関する大学のテキストを近年執筆している。本プロジェクトは、これらの先端的知見から今後の本学における音楽教員養成教育の改善の方向を検討し、また同時に学生の基礎的な研究・指導能力の向上を図った。

秋学期 11 月に集中セミナーを開催し、大学院・学部の複数科目の授業と連携し、国際的な共同研究と本学の教員養成教育の融合を目指した。また、セミナーの開催に当たり通訳を研究代表者が行った。その結果、１）今後の音楽教員養成教育の改善への基本的視点を得ること、２）本学の大学院・学部学生に対して不足している基礎力を補充するという、２つの側面から成果をあげることができた。また特に大学院の授業においては、院生による楽曲の演奏と演習も合せて実施した。５回のセミナーを通じて、述べ約 250 名の学生が参加し、本学の音楽教員養成教育に一定の影響を与えたものと評価できる。

実施したセミナーの具体的内容、関連科目・教員は、下記のとおりである。

第１回　11 月 12 日（水）16:10~11:40　於：音楽教育講義室１
テーマ【組曲】 舞曲 ～ J. S. バッハ （関連科目：音楽学研究 C：吉川文教員）
ヨーロッパの古典舞曲およびペア・ダンスの歴史を踏まえ、バッハのクラヴィーアのためのフランス組曲を例に、音楽分析の演習を行った。

第２回　11 月 13 日（木）12:50～14:20　於：音楽ホール
テーマ【２台ピアノ】 C. サン＝サーンス：動物の謝肉祭 vs W. A. モーツァルト
（関連科目：大学院ピアノアンサンブル：高澤ひろみ教員、椎野伸一教員）
サンサーンスにおいては、音楽における引用の手法を、モーツァルトにおいては、絶対音楽的な視点から３の象徴に着目しながら１楽章を中心にソナタ形式の分析を行った。

第３回　11 月 18 日（火） 14:30～16:00, 16:10～17:40　於：音楽教育講義室１
テーマ【フーガ】J. S. バッハ：フーガの技法（関連科目：中等音楽科教育法 II, IV：中地雅之）
フーガの基本構造を概説した上で、バッハの晩年の作品における「拡大と縮小フーガ」「転回フーガ」「鏡映フーガ」等多様なフーガの実例を分析し、また現代作品への影響を省察した。

第４回　11 月 19 日（水）8:50～10:20　於：１０１教室
テーマ【交響曲】 J. ブラームス：交響曲 第１番 （関連科目：大学院指揮法：山本訓久教員）
ブラームスの第１交響曲を成立の背景から考察し、特に終楽章におけるモチーフの構成及び展開を中心に分析を行った。３月には、参加者を中心とした本曲の管弦楽演奏会が実施された。

第５回　11 月 19 日（水）16:10～17:40　於：音楽ホール
テーマ【ドイツ・リート】 R. シューマン：「月の夜」「美しき５月に」「昔の忌わしい歌を」
（関連科目：大学院ドイツ歌曲：石崎秀和教員、中野孝紀教員）
シューマンの代表的な３つの歌曲を取り上げ、ドイツ語の韻律を分析しディクテーションの演習を行った。さらに、歌詞の分析とその音楽的な構成の関係を中心に分析を行った。２月に開催されたドイツ歌曲の演奏会にその成果を認めることができる。

セミナー終了後にその内容を関係教員で省察し、今後本領域における研究と実践の一層の推進が必要であることを確認した。

研究成果発表方法

［発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。］

本研究の成果は、受講学生による学内の演奏会において、ドイツ歌曲、管弦楽ゼミナール等の演奏会を通じて発展・応用され、音楽実践のかたちで発表されている。また理論的な内容に関しては、本学紀要または日本オルフ音楽教育研究会研究誌への投稿を予定している。また、ザルツブルグに本部を置く、学際的な音楽教育研究の推進を図る国際多元美学教育学会 IGPE Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung での報告も検討している。